

大分県支部 第三十三回俳句大会成績

日時 令和七年五月十八日
会場 ホルトホール大分会議室

募集句

守屋明俊選（本部選者）

特選 耕して一番星に見てもらふ 黒木 豊

準特選 掩体壕戦後八十年の春 古寺 周一

同 風の道一と筋ならず麦青む 亀田多珂子

同 受験子の背に手を当て送り出す 中尾 豊子

入選 ポン菓子の春一つ打つ二つ打つ 松本 公節

同 土砂降りの後の湯煙山笑ふ 市ヶ谷洋子

同 玻璃越しにアイコンタクト雀の子 橋本真喜子

同 ゆたかなる国分寺跡麦青む 藤井 淳子

同 やはらかな組子の光桜東風 小野 瑞季

同 坊守も火消しに走る野焼かな 小野 瑞季

同 山茶花の乱と云ふほかなき小径 松本 公節

同 採血の技春愁をぬぐひ去る 森 明以子

同 国東の鬼も出て舞ふおぼろ月 小田 祥子

同 せめてもの一人の夜の土筆和 竹下百合子

同 人の世に誤嚥冤罪梅真白 古寺 周一

同 参る墓風除けにして燐寸する 片岡 学

同 逆光の少女佐保姫かもしれぬ 富川 元女

同 雲雀野や湯布院森号通過駅 富川 元女

同 子の帰り待つて五反の畦を焼く 江藤 江野

当日句

特選 麦刈りの父の背中を見てかへる 佐藤りゅう

準特選 夏帽子大きく空をふりまはす 片岡 学

同 神木の青葉しぐれや寿 松本 公節

入選

名人の指の先より蝶生まる

市ヶ谷洋子

同

老いてなほ夫婦にきづな風薫る

古賀 京子

同

底抜けの空へ寝ころぶ蓮華草

高野ちか子

同

血の池の湯気の中飛ぶ鬼やんま

宮内 忠久

同

たけの子茹づ坊主地獄の噴く如く

木下 恕子

同

筆塚の筆の一文涼しけれ

富尾 和恵

同

関鯖を捌きて水の荒使ひ

富川 元女

同

好きな絵に先生描く子さくらんぼ

古賀 京子

同

連なりて蠟螂生ずと見かう見

今宮 嘉子

同

「ふう」と汗拭き「ふつ」と吐く君の息

佐藤りゆう

互選二句

カーネーション一輪挿しの予約席

松本みゆき

円墳を丸く残して田水張る

立見 眞理